

平成 29 年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■鷹山地区：7月19日（水）午後7時30分～9時 参加者数 52名

Q. 大久保線の改修工事を始める前に、しっかりと地権者の許可を得たのか。

A. 大久保線は以前から舗装してほしいという要望をいただいております、昨年度末にコンクリート舗装させていただきました。基本的には現道を舗装するという事で、本来であれば地域の関係者の方に集まっていただいて説明すべきだったが、今回は対象の家庭へ個別に話をさせていただいて工事を始めた。結果的に現道に設置させていただいた水路やコンクリート舗装が民地に入り込んでいる場所が数カ所あった。この件については地権者の方ともいろいろと話をさせていただいており、現在もさまざまな課題について対応させていただいている。できれば今の形で収めさせていただきたいとお願いしているところだが、難しい部分も多々あり、交渉させていただいているところである。

Q. 鷹山地区の避難所が旧鷹山小学校になっているわけだが、実際に災害が発生した場合など、小学校に行って避難所を設営しなければならないのか。また、小学校はすべて使わせていただけるのか。体育館しか使うことができないと聞いたが、人数的に入りきれぬのか。

A. 災害等が発生した際の避難所の設置については、町の判断の中で開設させていただくこととなっており、各地区に配置している担当職員をいち早く避難所に向かわせて対応させるようにしている。さらに、自主防災組織の皆さんの協力をいただきながら町としての対応を進めていきたいと考えている。

旧鷹山小学校については、体育館を避難所として指定させていただいている。現時点で、校舎棟についてはNPO法人ひびきで放課後等デイサービス、さらには就労継続支援B型事業を展開しているので、第一義的には避難所から外れているが、人数が入りきれない状況になれば法人側と調整して一部スペースを使わせていただいて対応する。ただし、町としては体育館に入りきる人数と把握している。地域性からすれば萩野地区がメインということになると思うが、耐震基準等をクリアしている施設を避難所として指定していることから、萩野地区については旧鷹山小学校体育館を避難所に設定している。なお、避難人数が想定を超えることになれば別の場所に、あるいは他の施設に移動していただかなければならないと考えている。ただし、町全域になればということになるので、その辺については災害の状況や発生場所などを確認しながら臨機応変な対応していきたいと考えている。

Q. 最近鳥獣の被害が激しく、特にイノシシによる作物の被害が多発している。町ではど

のような対策をしているのか。また、今後についてどんな施策を考えているのか。

A. 今年度も、役場にはクマやイノシシの目撃情報を多数いただいております、クマが家屋に侵入したり、イノシシがそこら中の畑を掘り荒らしていったりという話をいただいている。イノシシの対策としては、20頭の捕獲申請を町から県へ提出し、許可を受けている。今後は猟友会の皆さんとともにイノシシが荒らしていった跡などを調査し、捕獲方法について検討していきたいと考えている。

Q. イノシシを捕獲した際の補助金等の支出はあるか。

A. 捕獲した際にお金を出すという地域が県内外にあるという話は聞いている。当町では、県及び国の事業を使いながら、電気柵による追い払いを中心に行っている。捕獲をしてお金を出すという話になる前に、捕獲の体制ができるかどうかも含めてどのような方法が一番効果的なのか、もし町が単独で何かをする必要があるというのであれば、それらも含めて検討していかなければならないと思う。

また、近年は町の猟友会の皆さんもだいぶ高齢化して人数も減っている。意欲のある方に獣害対策にあたっていただけるような支援も検討していきたい。

Q. 電気柵について、メーター数的に限度があるということをお話したところ、ヤギを飼えば草対策にもなるし、尿糞によって鳥獣が近寄ってこないと聞いた。そういうものに実際に効果があるとすれば、町でも何かしらの補助を考えていただければありがたい。

A. ヤギあるいはウシを中山間地域の山境の場所に放牧し、草を食べてきれいにしてもらうと害獣が寄ってこないとのことで、実際に取り組んでいる地域があると伺っている。もし、そのようなことを試してみたいという地区があるとすれば、予算的な部分も含めてお話しさせていただきたいと思う。

なお、このような取り組みを行っているところとしては、主に中山間地域の直接支払事業などを活用しながら取り組まれているという話もお聞きしているので、情報を取らせていただきながらお話しさせていただければと思う。

Q. 紅花の拠点はお十王にあるということで新聞に掲載されていたが、紅花まつりの主会場が今後どうなるかわからず不安なところがある。また、紅花畑が狭く感じられたという話もあったので、これからの紅花まつりの動向をお聞きしたい。

A. 十王の新しいコミュニティセンターを紅花の交流館と位置づけ、今年度中に竣工するような形で事業に取り組んでいる。ただし、外構工事については来年度になるかもしれない。

いため、実質的なオープンについては7~8月辺りになると思う。

なお、紅花まつりの会場がそちらに移るかどうかについては、公式的な判断はまだしていない。紅花の交流館ということでの展示や、紅餅を加工する場所、紅花を使用した料理を作る設備的なものは、新しいコミュニティセンターの中にできるということである。ただし、紅花まつりのメイン会場をその場所にするかどうかについては、まだ十王地区の皆さんとも話し合いをしていないので、その件についてはこれからの話になると思う。

また、紅花の主産地としては中山、萩野、滝野、十王それぞれにあり、紅花まつりのメイン会場は滝野交流館にさせていただいているが、八卦の分館と大日堂も中心会場となっており、そこに新たな会場が加わることで中心会場が4つになると捉えていただいていると思う。ただし、メイン会場をどこにするかという点については、これから話し合いをさせていただきたいと考えている。

町長. 今まで滝野交流館がメイン会場としてきたわけなので、今後も同じような形で開催していくべきだと思う。また、実はあゆ茶屋の前の紅花畑は町内で一番規模が大きく、荒砥駅でも紅花の期間中に小判などの展示をさせていただいている。そういったものが総合的に町内の中であいまって、全体的に広がることで素晴らしいものができあがるのだと思う。

さらには、河北町や山形市との連携ができて初めて山形県の花として紅花が活きてくると思う。この件については、山形市長や河北町長と話を進めているが、もう少し時間は要すると思う。また、残念ながら昨年の農業遺産登録にはならなかったが、山形県の紅花として全体的に取り組んでいく必要があると思う。

なお、まつりの設定は担当課で行っているが、交流人口を増やすという目的のために皆さんから忌憚のない意見を出していただきたい。そして、結果的にまつりが尻つぼみになっていかないようにしていきたいと考えているので、ご協力をよろしくお願ひしたい。

Q. 滝野地区で林道整備に入っているとのことだが、どのような進め方をしているのか。また、萩野の作業道もだいぶ崩れて山に行けないところもあるが、町として今後どのような考えで進めていくのか。

A. 林道については、平成25、26年の災害のときに大規模に被害を受けたところがあり、ようやく通行できるようになったところもあるが、上の方まできちんと行けないところもある。現在は、町の直営部隊があるので、そちらの方で少しずつ直しながら進めている状況である。

また、滝野側からであれば、白鷹東部線の災害復旧工事がようやく完了し、開設工事に向けて進んでいるところである。今年度、再び工事に入っていけると思っているが、県と連携しながら進めていきたいと考えている。

その他の林道については、町内各地から要望が出ている。直営の手直しでいけるところもあれば、林道自体がまるっきりなくなっているところもある。

そういったことも含め、地域の森林経営の中でどのようにしていくかということも含めて対応を考えていかなければならない。現在は境界明確化事業にも取り組ませていただいているわけだが、地区の中で森林経営計画をつくると国や県の助成を受けることができる。そのような有利な事業も使いながら森林の整備も進めていきたいと考えているので、地域の皆さんと森林経営の部分までお話しさせていただきながら林道についてもお話しさせていただきたいと思う。

Q. 身の回りのゴミやいらなくなったものなどを処分したいが、かなりの量があり、普通のゴミ袋や土嚢袋に詰めたのではなかなか無くならない。そこで、清掃業者のコンテナを借りてゴミが溜まったら持って行ってもらうということはできないか。

A. お金はかかるが、ゴミが溜まったら持って行ってもらえる業者はある。

長井のクリーンセンターと高島町の千代田クリーンセンターに、トラックなどで直接搬入して処分することは可能。また、布団や毛布といった大きいものについては、町民課に連絡をいただければ回収用のシールをお渡しするので、それを貼っていただければ指定業者が回収に伺う。

Q. 仕事をしている人は日曜日にクリーンセンターへゴミを持って行っても、休みなので回収してもらえない。そのため、月1回でも良いので土日の営業を考えていただきたい。

A. 休みの日に個人でクリーンセンターへ直接ゴミを持って行き、処理をしていただきたいということについては、置賜地域の構成市町村で開いている会議の中で要望させていただきたいと思う。

Q. 新屋敷の松戸線のところで、下から100~200mくらいを舗装してきれいにしていたが、そこから上の部分で穴が開いたりしている場所がある。付近には小さい子どももおり、転んだりしたら危ないので、舗装を延長していただくか補修して穴を塞いでいただくの対処をしていただきたい。

また、コミセンから下の道路で側溝が入っていないところがあるが、区民の人から側溝を入れてほしいという要望がある。

A. 地区や区からの要望の中でも、別な路線で穴が開いているので対処してほしいという話をいただいている。川西と川東で穴が開いているようなところについては、春先に業者に依頼して修繕しているが、対処しきれないという部分もあるので、逐一そのような場所

を確認させていただき、できる限り早めに対応させていただきたいと思う。

Q. 中山地区には6町内あるが、地区の人数が少なくなってきた中で統合などについて町で考える余地はあるのか。それとも、各地区に任せるのか。

A. 地域の課題については、さまざまな思いや歴史が全部つながっている。それぞれの地域の中で十分に話し合っていたううえで、行政へ提案いただければ協力できるが、行政側で調整することは非常に難しいことである。今まで町全体の中でそういったケースは数件あったが、行政側から入って話がまとまったという事例はない。いろんな課題が絡んできて難しい問題もあるので、町内のみならず地域全体の課題として十分に話し合っていたう後に行政に相談させていただきたい。

Q. 荒砥小学校へ下校時間に迎えに行くことがあるが、相当な人が迎えに来ていて駐車場が狭すぎると感じている。スクールバスも入ってくるため路肩に停めることもできないので駐車場の増設について検討してほしい。

A. 今のところ荒砥地区からもそのような要望はいただいているが、現在、荒砥小学校の大規模改修工事により外回りの改修を行っている関係で、車を停めるスペースも限られている状況になっている。雪が降る前にはある程度終了する予定なので、それ以降は以前のような駐車スペースは確保できると思う。

なお、これ以上の増設については、今の配置等を考えると難しいと思うので、他地区のお話を伺いながら検討していきたい。

Q. 4月から蚕桑地区で御用聞き事業が始まったわけだが、その状況を教えてほしい。

A. 昨年度に買い物環境調査をさせていただいて、高齢者の方からお話を伺った。その中で一番多かったのが、自分でお店に行って買い物したいという意見だったが、そちらについてはデマンドタクシーを利用させていただいて買い物していただくことになる。

また、65歳以上の方のみで構成される世帯で、買い物に行きたいけど行けない方に対し「御用聞き事業」を展開させていただいている。事業を受けていただくためには、会員（無料）になっていただく必要があり、状況としては現在8名の方に会員になっていただいている。5月26日から6月30日までで、8名のうち7名の方に計5万7千円ほどのご利用をいただいた。これから中間の検証もさせていただくが、商業的な面や福祉的な面、地域づくりの視点なども含めて総合的な検証をし、今後の方向性について検討していきたいと考えている。

なお、平成28年4月1日現在で、蚕桑地区は総世帯数が807戸。65歳以上の方のみで

構成されている世帯が 193 戸 (24%)、75 歳以上のみで構成されている世帯は 95 戸 (12%)
となっている。